



開放制による一般大学学部における教員養成の特色 -鳥取大学地域学部及び神戸大学発達科学部の試み

渡部, 昭男

(Citation)

日本教育大学協会研究集会発表概要集, 平成23:154-155

(Issue Date)

2011-10-15

(Resource Type)

conference paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90001620>



開放制による一般大学学部における教員養成の特色 －鳥取大学地域学部及び神戸大学発達科学部の試み－

神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授（鳥取大学名誉教授）渡部昭男

akiowtnb@port.kobe-u.ac.jp

1 はじめに

教員免許状の授与は 2008 年度で 21 万件台、一方で公立学校教員採用選考試験は 2007 年度で受験者延べ 16 万人台、実際の採用は 2 万人台である。免許状要件に「1 年間の実習やインターン」「6 年制養成」を組み込んで予め免許取得者を絞り込むとすれば、教員採用市場は冷え込むであろう。そうでなくても、今や教職は「羨望職」ではなく、むしろ「忌避職」となりつつある。低下する教員採用市場の倍率を「十倍」程度に回復・維持すべく、若者を教職に向かわせる方策が求められる。その為には、教師教育の在り方を一般大学学部も巻き込んで検討することが肝要である。今回は、報告者の前任校である鳥取大学（地域学部）並びに現任校である神戸大学（発達科学部）における教員養成の特色を述べる。

2 鳥取大学地域学部における試み

【歩み】1949 年、新制国立大学としてスタートした鳥取大学には、学芸学部が置かれた（前身は鳥取師範学校・鳥取青年師範学校）。1967 年、教員養成目的の教育学部になったが、この時にもらった学生定員（小学校課程 110 名・中学校課程 50 名・養護学校課程 20 名）をピークに、その後は目的養成部分を次第に削減する改組へと向かう。1988 年、小学校課程の定員 40 名を振り替えてゼロ免課程を設置し、1995 年にはさらに 20 名増やして 60 名とした（教育学部定員の 1/3）。そして、1999 年に教育地域科学部へ、2004 年には地域学部（地域政策学科 50 名・地域教育学科 50 名・地域文化学科 45 名・地域環境学科 45 名／その後 1 名ずつ減じて芸術文化コース 4 名を新設）へと改組した。今年度で 8 年目となる。

【全学体制】鳥取大学の課程認定状況は、地域学部地域教育学科～幼・小・特別支援学校、他学科～社会（中）・国語・英語・理科（中高）・地理歴史・公民（高）、農学部～理科（中高）など、工学部～技術（中）・理科・数学（中高）などであり、保健体育・音楽・美術・家庭の 4 教科はない。附属 4 校園は大学附属（附属学校部所管）となり、附属校園長、附属学校部、教育実習、教員免許状更新講習などは、全学体制で行われている。

【進路状況】地域学部の独自入試で入った第 2 期生（2005 年度入学）の卒業後の進路状況（2009 年春）は、地域政策学科（卒業者 40 名）が民間企業 24 名（60%）・官公庁 6 名（15%）・進学 5 名（13%）、地域教育学科（同 52 名）が教員 19 名（37%）・民間企業 11 名（21%）・官公庁 8 名（15%）、地域文化学科（同 41 名）が民間企業 23 名（56%）・進学 9 名（22%）・教員 4 名（10%）、地域環境学科（45 名）が民間企業 28 名（62%）・進

学 11 名（24%）・教員 1 名（2%）などであった。教員 24 名の内訳は、小学校 15 名・特別支援学校 4 名・中学校 2 名・高校 2 名・幼稚園 1 名である（他に保育所 9 名）。

【特色】渡部 2009・2010 にある「サンドイッチ方式による幼稚園・小学校教育実習」「2 年次実施方式による特別支援学校教育実習」等によって、地域学を学びつつ伸び伸びと「教職への憧れ」を育んでいる。もちろん「教職実践演習」の準備も進んでいる（山根ほか 2011）。

3 神戸大学発達科学部における試み

【歩み】神戸大学は、周知のように全国に先駆けて教育学部の一般学部化に踏み切り、1992 年に発達科学部（現在、人間形成学科 90 名・人間行動学科 50 名・人間表現学科 40 名・人間環境学科 100 名の 280 名、3 年次編入 10 名）を設けた。来年度が 20 周年に当たる。

【全学体制】神戸大学は 11 学部・14 研究科を擁する総合大学であり、教員養成は全学体制で行われている。課程認定状況は、発達科学部人間形成学科～幼・小・特別支援学校、他学科～国語・英語以外の中高免許、文学部（国語・英語など）・国際文化学部（英語）・経済学部・理学部・農学部・海事学部である（神戸大学『教職課程ハンドブック』各年度）。

【進路状況】約 4 割が教員免許を取得し、約 1 割が教員になる。人間形成学科 2011 年春の進路状況（卒業者 86 名[学部全体 285 名]）は、進学者 19 名（22%[同 26%]）、企業 26 名（30%[同 44%]）、公務員 10 名（12%[同 7%]）、教員 17 名（20%[同 10%]）であった。

【特色】授与学位は「学士（発達科学）」である。主に小学校教員をめざす学校教育論コースの学生は、「総合大学」「幅広い内容を学べる」「知的な女性になれる」「教育学に興味・関心があった」「名前が面白そう」等を志望理由に挙げており、伸びやかさに溢れている。

4 一般大学学部における教員養成を踏まえた提言

昨今の「質保障」論議は「初任時点で立派な授業ができること」を求めるきらいがあるが、教職とは「絶えず研究と修養に励み」（教育基本法第 9 条）、採用から定年までの間を通して成長していく専門職である。追い込んで「伸びきったゴム状態」にするのではなく、持続発展可能な「教職人生を通した省察と研鑽を担保する質保障」であらねばなるまい。

一般大学学部における教員養成も踏まえた上で、①「省察・研鑽によって成長しうる基礎的な力を有する者」には免許状を広く与える、②多様な資質をもった志願者を教員採用市場に引き寄せる、③採用内定後に 1 年間の実務研修を行う（初任者研修の拡充等）という方策を提言したい。司法試験合格者や医師国家試験合格者に実務研修を行わせることに鑑みれば、「無資格者」に授業をさせる教育実習等の長期化を法定するには疑義が大きい。

【参考文献】渡部昭男（2009）「開放制における『サンドイッチ方式による幼稚園・小学校教育実習』並びに『2 年次実施方式による特別支援学校教育実習』の現状と課題」『地域教育学研究』（鳥取大学地域学部地域教育学科）1 巻 1 号。／渡部昭男（2010）「開放制原則に基づく総合大学・一般学部における小学校教員の養成—鳥取大学地域学部における『W サンドイッチ方式』の試み—」『地域教育学研究』2 巻 1 号。／山根俊喜ほか（2011）「鳥取大学教職ポートフォリオの開発」『鳥取大学教育研究論集』1 号。